

JENESYS2025 日本・東ティモール日本語・日本文化交流（日本人大学生派遣）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

日本の大学生 6 名が 3 月 10 日から 3 月 17 日まで東ティモールを訪問し、日本語学習者を含む現地の人々に日本語及び日本の魅力を紹介し、双方の文化と言語に対する相互理解を深めました。一行は学校交流やホームステイのほか、認定特定非営利活動法人パルシック、独立行政法人国際協力機構（JICA）などへの視察を行い、東ティモールで活動する日本の団体の取り組みや、二国間の協力関係についても学びました。参加者はこれらの体験を通じて得た学びや日本の魅力を、SNS 等を活用して積極的に発信するとともに、両国の更なる友好に向けたネットワーク強化にも取り組みました。

【参加者】日本の大学生 合計 6 名

【訪問地】東ティモール デイリ 6 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

- 8 月 26 日（火曜日） 【オリエンテーション】全体初回オリエンテーション
 【講義】「ようこそ、日本アセアンセンターへ」
 2025 年度全 JENESYS ASEAN 派遣プログラム合同実施
 講師：国際機関日本アセアンセンター（東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター）観光交流チーム 渡邊 光生 氏
- 11 月 27 日（金曜日） 【講義】
 派遣国理解講義「JICA 東ティモールでの活動の歴史と ASEAN 加盟について」
 講師：独立行政法人国際協力機構（JICA）東ティモール事務所
 白石 孝明 氏
- 2 月 25 日（水曜日） 【参加者説明会】

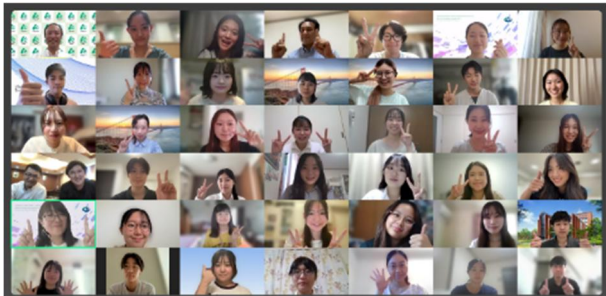
■ 派遣プログラム:

- 3 月 10 日（火曜日） 【出発前オリエンテーション】
 成田国際空港より出発
 イ・グスティ・ングラ・ライ国際空港（バリ・デンパサール）到着
- 3 月 11 日（水曜日） イ・グスティ・ングラ・ライ国際空港（バリ・デンパサール）から
 プレジデンテ・ニコラウ・ロバト国際空港（デイリ）到着
 【表敬訪問・講義】「東ティモールと日本について」
 講師：在東ティモール日本国大使館 大塚 菜生 一等書記官
 【交流】JENESYS 招へいプログラム同窓生との交流
- 3 月 12 日（木曜日） 【視察・交流】JICA 東ティモール事務所

	① オフィスツアー、ナショナルスタッフとの交流 ② ギド・ヴァラダレス国立病院 建設現場視察 ③ JICA 海外協力隊 活動見学（ギド・ヴァラダレス国立病院） 【学校交流】東ティモール国立大学（UNTL）
3 月 13 日（金曜日）	【学校交流】ケサディップ・ルアク・センター 【視察】認定特定非営利活動法人パルシック 【視察】東ティモール・レジスタンス博物館
3 月 14 日（土曜日）	【視察】クリスト・レイ（キリスト像）、サンタクルス墓地、タイス市場、マンレウアナ市場 【ホストファミリー対面】 【ホームステイ】
3 月 15 日（日曜日）	【ホームステイ】 【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
3 月 16 日（月曜日）	【報告会】渡航成果・帰国後の活動計画（アクション・プラン）発表 プレジデンテ・ニコラウ・ロバト国際空港（ディリ）より出発、イ・グスティ・ングラ・ライ国際空港（バリ・デンパサール）へ到着
3 月 17 日（火曜日）	イ・グスティ・ングラ・ライ国際空港（バリ・デンパサール）より出発 成田国際空港到着

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
2025 年 8 月 26 日【講義】 「ようこそ、日本アセアンセンターへ」	2025 年 8 月 26 日【講義】記念撮影
	
2025 年 11 月 27 日【講義】派遣国理解講義「JICA 東ティモールでの活動の歴史とASEAN加盟について」	2026 年 2 月 25 日【参加者説明会】

派遣プログラム



2026 年 3 月 11 日【表敬訪問・講義】在東ティモール日本国大使館、【交流】JENESYS 招へいプログラム同窓生との交流



2026 年 3 月 12 日【視察・交流】
JICA 東ティモール事務所



2026 年 3 月 12 日【視察・交流】JICA 海外協力隊
活動見学（ギド・ヴァラダレス国立病院）



2026 年 3 月 12 日【学校交流】
東ティモール国立大学（UNTL）



2026 年 3 月 13 日【学校交流】
ケサディップ・ルアク・センター



2026 年 3 月 13 日【視察】
認定特定非営利活動法人パルシック



2026 年 3 月 13 日【視察】
東ティモール・レジスタンス博物館



2026 年 3 月 14 日【市内視察】
クリスト・レイ（キリスト像）



2026 年 3 月 14 日【市内視察】サンタクルス墓地



2026 年 3 月 14 日【市内視察】マンレウアナ市場



2026 年 3 月 14 日～15 日【ホームステイ】



2026 年 3 月 14 日～15 日【ホームステイ】



2026 年 3 月 16 日【報告会】



2026 年 3 月 16 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

プレプログラムでは、テトゥン語への興味も深まり、本番までに学習しようと考えています。また、現地では日本の武道も人気とのことなので、私自身がやっている合気道を通じて現地の方と仲良くなれたらと思います。改めて、現地への渡航が楽しみになりました。

◆ 大学生

ホームステイや NGO 視察、政府機関への訪問等を通じて、東ティモールの方々や、現地で活動する様々な立場の人々の思いや考えに触れることができた点が、とても印象に残りました。

また、多様な視点から東ティモールや日本との二国間関係について学び、理解を深めることができました。

◆ 大学生

プログラムの中でも、ホームステイを経験できたことが最も印象に残りました。ホストファミリーと一泊二日を共に過ごす中で、東ティモールの国民性や生活について詳しく知ることができました。個人でここまで深く理解することは難しく、ホームビジットではなくホームステイだったからこそ、より密接な絆を築くことができました。

◆ 大学生

認定特定非営利活動法人パルシックにて、民際協力活動についてお話を伺いました。独立したばかりで十分な基盤のない状態のコーヒー農園を、若年層の雇用や農村部の経済支援まで担えるほどのコーヒー農園に育て上げられたというお話がとても印象的でした。また、コーヒーさえ収穫できれば良いと考えるのではなく、通年で農家さんが収入を得るためにはどうしたらよいか、女性と子どもの栄養状態を改善するにはどうすればよいかを常に考え、挑戦されている姿勢に驚かされました。お話を伺いながら飲むコーヒーは、いつもとは少し違った味わいに感じました。

◆ 大学生

JICA 海外協力隊の活動見学で ODA サイトを訪問し、東ティモールの人々が長く使い続けられる病院づくりをされていることを学びました。東ティモールの医療機器は十分ではないし、設備も衛生環境も日本ほど整っていない中で、どのように活動し、どのように現地の方と信頼関係を築いていくかを常に考えながら取り組まれている姿が印象的でした。高度な医療を提供するのではなく、現地の現状を理解し、できることから支援することが大事だと感じました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 交流校教員

日本の大学生の皆さんは、日本語が東ティモールの学生に伝わるか、楽しんでもらえるかと心配そうでしたが、ゲームをしたらとても盛り上がり、「喜んでくれている！」「心が通じた！」と感じているのがこちらにも伝わってきたことが印象に残りました。交流会では、東ティモールの学生が「自分の日本語が（先生以外の）日本人に通じた！」「（一般の）日本人の日本語が少し理解できた！」という喜びがあり、東ティモール人の日本語学習者にとっては大きなモチベーションになっていると感じました。多くの学生が初めて合気道や書道を体験し、心から楽しんでおり、日本への関心が更に深まったと思いました。また、言葉が分からなくても「一緒に笑い合い、楽しむことができた」という心の通い合いがあり、これは長い目でみると、違いを乗り越え草の根レベルでの平和構築にも寄与していると考えます。

◆ 交流校生徒

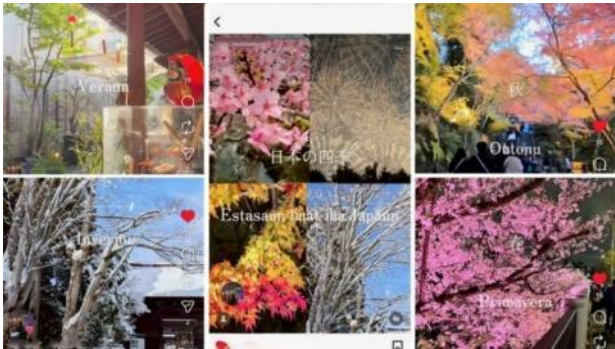
この交流を通じて、異なる文化や価値観に触れることができ、とても貴重な経験となりました。最初は少し緊張していましたが、交流を重ねるうちに次第にコミュニケーションにも慣れ、心から楽しむことができました。特に、日本の日常生活や文化について学べたことが強く印象に残っています。この経験をきっかけに、日本語の勉強にもより真剣に取り組みたいと思うようになりました。

◆ ホストファミリー

JENESYS 参加者を家庭で受け入れたことは、私たち家族にとって、新しい発見や笑顔、そして心の通ったつながりに満ちた、とても意義深い経験でした。さまざまな場所を訪れ、歴史を学び、自然を楽しみながら、多くの思い出を共に作ることができました。

自宅では、日本大使館に勤務する姉を交えた家族での夕食会を通して、文化交流をより深めることができました。また、伝統的なタイス（tais）を着てもらったり、子どもたちと一緒にけん玉で遊んだり、海辺で新鮮なココナッツウォーターを飲みながら過ごすなど、東ティモールの文化も共有しました。こうした経験を通じて、参加者は私たち家族の一員のような存在となりました。受け入れから始まった関係は、やがて本当の友情へと広がり、文化交流と人と人とのつながりの大切さを改めて実感する機会となりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2026 年 2 月 5 日（Instagram） 日本の四季を、伝統的、象徴的なものも含め、美しい沢山の画像を用いて、日本語とテトゥン語で紹介	2026 年 2 月 21 日（Instagram） 日本紹介：オノマトペ オノマトペとは、音をまねたり、状態や感情を表したりする言葉です。 ペコペコ：とてもお腹が空いている状態 ワクワク：楽しみで期待している気持ち ドキドキ：緊張や興奮で心臓が速く鼓動する様子 ニコニコ：にこやかに笑っている様子 キラキラ：光り輝いている様子 ポツポツ：弱い雨が降り始めた状態 ザーザー：激しく雨が降る様子



2026 年 2 月 14 日 (Instagram)

日本文化紹介：着物

着物は、日本の伝統的な衣服です。単なるファッションではなく、模様や柄には意味が込められています。例えば、「新たな始まり」「長寿」「祝い」「幸運」などを象徴する柄があります。東ティモールの伝統織物タイス (tais) のように、文化的なメッセージを持つ織物です。

着物は持続可能な衣服でもあります。無駄が少なく、体型に合わせた仕立て直しや、染め直し、作り替えが可能です。一生着ることができ、世代を超えて受け継ぐこともできます。



2026 年 3 月 15 日 (Instagram)

3 月 14 日～15 日ホームステイ

全てのホストファミリーが、大変温かく親切に私たちを迎え入れてくれました。心より感謝しています。皆さんと過ごした時間は、私たちにとって素晴らしい思い出になりました。本当にありがとうございました。



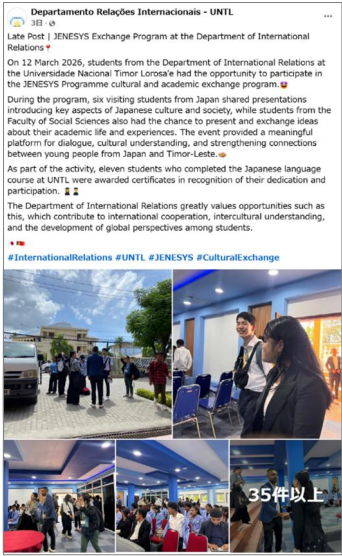
2026 年 3 月 16 日 (Instagram)

Instagram プログラムのハイライトを共有。



2026 年 3 月 22 日 (Instagram)

JENESYS2025 にて、東ティモールを訪問しました。国自体が自分と同じ年齢という驚きの環境で交流をさせていただきました。一番心に残っているのはホームステイで、タイスという東ティモールの伝統織物を利用した伝統衣装を着せていただきとても貴重な体験をしました。プログラムでは、現地の大学や日本語学校と

	の交流を通じて、まさに発展途上にある国の現状とエネルギーを肌で感じました。幸運なことに、東ティモール唯一の国立病院も見学させていただき、日本との違いに驚きました。非常に貴重な体験をさせていただきました。一緒に走り抜けてくれた5人の仲間にも感謝します。今回のプログラムでの経験を活かし、次につなげていきたいと思っています。
	
2026 年 3 月 16 日（東ティモール国立大学 Department of International Relations Facebook） 「国際関係学部での JENESYS 交流プログラム」 2026 年 3 月 12 日、東ティモール国立大学 国際関係学部の学生が、JENESYS プログラムによる文化・学校交流プログラムに参加しました。 プログラムでは、日本から派遣された 6 名の学生が、日本の文化や社会などさまざまな側面についてプレゼンテーションを行いました。また、社会科学学部の学生も発表を行い、大学生活や経験などについての意見交換を行いました。 この交流は、日本と東ティモールの若者が対話を通じて、お互いの文化についての理解を深め、つながりを強化する有意義な場となりました。 国際関係学部は、このような機会が学生の国際協力や異文化理解を促進し、グローバルな視野を育む上で重要であると考えています。	2026 年 3 月 16 日（JICA 東ティモール事務所の Facebook） 「JENESYS 日本の大学生が JICA 事務所と HNGV を訪問しました」 3 月 13 日、日本からの大学生 6 名が JICA 事務所を訪問しました。オフィスツアーの後、参加者は JICA のナショナルスタッフと、日本と東ティモールの違いや課題について意見交換を行いました。 その後、一行はギド・ヴァラダレス国立病院（HNGV）へ移動し、新しい病棟の建設現場を視察するとともに、JICA 海外協力隊員と交流しました。東ティモールにおける医療の現状や課題について理解を深める機会となりました。 JENESYS は、日本政府が推進するプログラムで、日本とアジア・太平洋地域の国々との間で若者の相互交流を促進することを目的としています。参加者は文化交流や学校交流などでの体験を通して、相互理解を深め、友好関係を築きます。東ティモールの若者もこのプログラムを通じて、毎年、日本を訪問しています。

6. 報告会での渡航成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 1 グループ発表

【成果の発表】 ◆ プログラムでの学び 日本が東ティモールの発展に長く関わってきたことを実感しました。道路などのインフラ整備や医療支援を通じて、日本が信頼できるパートナーとして協力していることを知りました。 また、人口の多くが若者である非常に若い国であることも印象的でした。東ティモール国立大学（UNTL）での交流では、学生たちのエネルギーや学ぶ意欲の高さを感じました。ホームステイを通して、家族や地域のつながりが強い社会であることも学びました。 一方で、街中では中国語や中国の支援による施設が多く見られ、中国の存在感の大きさを感じました。その反面、日本の取り組みや支援は一般の人々にはまだ十分知られていない可能性があることにも気づきました。 ◆ 「日本語・日本文化交流」の学び UNTL では、日本政府の奨学金制度を利用して日本へ留学したい学生が多くいることが分かりました。また、日本語学校の学生の多くは、将来日本で働くことを目標に日本語を学んでいました。日本語学習に対する意欲の高さが印象的でした。通信環境の不安定さにより、日本文化や留学制度（MEXT 奨学金など）に関する情報が届きにくい現状があると気づきました。 合気道や書道などの文化体験にも学生たちは積極的に参加しており、日本文化に対する強い関心を感じました。他方、日本文化を体験する機会が限られていることも分かり、継続的に日本や日本文化の情報にアクセスできる「窓口」や仕組みの重要性を強く感じました。 【アクション・プラン】 ・ 東ティモールのインターネット環境を考慮し、画像中心のシンプルな SNS 投稿を行います。日本の学生生活、日本文化、日本語などを紹介し、東ティモールの若者が日本について気軽に情報を得られるようにします。 ・ 日本の若者に東ティモールを知ってもらうため、派遣プログラムでの経験をもとにポスターを作成します。完成したポスターは、可能であれば東ティモール民主共和国大使館を訪問して助言をいただきながら内容を改善し、学校などで紹介することで、日本国内で東ティモールへの関心を高める活動を行います。日本人の間で東ティモールへの関心を高め、実際に多くの人に東ティモールを訪れてもらうことは、東ティモールの人々に日本への理解と親しみを広げることにつながると考えます。		

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）